

## 路地百選推薦書

推薦者氏名：別府オダサク倶楽部

推薦する路地（のまち）の名称	夫婦善哉波止場横丁
所在地	大分県別府市元町16

**【推薦する理由（路地のよいところ）】**

みなさまご存じ「大阪の路地裏の文士」の異名を取る織田作之助の出世作「小説・夫婦善哉」（昭和5年）。大阪・道頓堀裏の法善寺横丁をはじめ飛田新地大門前、日本橋・黒門市場などなどを舞台に、理髪店相手の安化粧品問屋のぼんぼん惟康柳吉とヤトナ芸者・蝶子が織りなす波瀾万丈の極私的オトコとオンナの愛の形を描き出した名作。戦後の昭和35年には同タイトルで映画化され、大ブレイクした。



ところが、主人公の柳吉、蝶子は実は、作之助の次姉・千代子夫婦がモデル。千代子夫妻は小説の通りの駆け落ち夫婦、大阪におられず昭和9年、別府温泉に流れ着く。たくましい生活力で、別府温泉・流川通り界限などで料理屋、旅館などを営んだ。

「夫婦善哉波止場横丁」には、千代子が戦後に営んだ甘い善哉（関東風と言えばお汁粉）も食べさせる風変わりな飲み屋「夫婦善哉」跡の建物（現在は中華食堂「一二三（ひふみ）」）があるほか、明治期に築港された別府港（通称：楠港）の完成を記念した「波止場神社」（写真）がある。この楠港こそ別府温泉と関西を結ぶ大阪商船（現在の関西汽船）の瀬戸内航路の起点・終点でもあります。

ちなみに、元西鉄ライオンズ投手・稲尾和久さんが生まれ育ったのもこの路地です。

**【写真添付】**



中華食堂「一二三」  
石畳の路地の奥が「波止場神社」

路 地 の ま ち の 概 要	面積	約      h a	路地の延長	約      m
	まちの 成り立 ち、 特色等			

路地のまちの概要は記入できる範囲で結構です。それぞれの枠の大きさは各自で調整願います。